

徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」議事要旨

I 日 時 平成 29 年 11 月 8 日（水） 15:00 ～ 17:00

II 場 所 徳島県庁 1 1 階 1 1 0 4 会議室

III 出席者（敬称略）

【委員】 10 名中 6 名出席

青木正繁（部会長）、近藤明子（副部会長）、  
上田ゆりえ、松尾彩、松本卓也、池添純子、竹内祐介

【オブザーバー】 10 名中 10 名出席

吉野信吾、三原寛子、河内健、茂村歩、富樫美奈子、新居美咲、松田沙代、  
富田理香、川西永悦、木内一恵

【県】

総合政策課政策調査幹  
地方創生推進課、次世代育成青少年課 ほか

IV 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 「人口が減少しても豊かに暮らせる社会の実現」について

(2) その他

3 閉 会

V 配付資料)

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料 1 「地方創生・本格展開」の加速に向けて
- ・資料 2 徳島県の少子化対策について

VI 議事

1 「人口が減少しても豊かに暮らせる社会の実現」について

地方創生推進課から資料 1 「地方創生・本格展開」の加速に向けて」について、  
次世代育成青少年課から資料 2 に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

（青木部会長）

それでは、事務局からの説明を聞いて、徳島の現状や課題について、まずは感じたこと  
からお伺いしたいと思っております。いやいやそうじゃなく高齢者の件が大事なんだよっ

ていうようなことをお話いただいても結構ですし、経済のことでも結構ですので、自分の視点で、徳島の現状や課題について感じたことを少し述べていただければと思っております。

それと、若者クリエイト部会は、通常の審議会や部会とは異なり、例えば竹内さんが手を挙げたら竹内委員さんどうぞと、まずは委員さんと付けていつも言うんですが、クリエイト部会では竹内さんとさん付けで呼ばさせていただきます。それと、オブザーバーと委員を分けておりますが、同列でございますので、オブザーバーの皆さん、オブザーバーだと委員の皆さんの助言をしなければいけないとの印象をお持ちかもしれませんが、決してそうではありませんので、皆さん対等でご意見をいただくような体制をとっていきたくと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、上田さん、今の現状、上田さんの視点で構いませんので少し述べていただけますでしょうか。

(上田委員)

少子化の対策であるとか、いろいろされていますが、逆におこがましいんですけど感心したというか、知らないんですよ、何やってるかなんて。言い方が悪いんですけど、当事者にならないと知り得ない、結婚にまだ踏み切れないとか、子育てどうしようとか、当事者にならないと踏み込まない所だし、やってみないとそういう段階に行かないと知り得ないことばかりで、正直知らない人の方が多いんだろうなって思いながら聞いていました。

私が勤務している会社は、アルバイトを10人前後雇っているんですが、全員大学生です。彼らは、徳島県出身の子もいれば、県外出身の子ももちろんたくさんいます。みんなにどう思うって聞いたら、若い子の意見として、すごい面白かったのが、徳島県内の子は、徳島県には何もないって言うんですよ。良い所を言うより悪い所の方をあげる。何もない、阿波おどりしかない。阿波おどりの、今年なんか騒がれたよねとか、開催についてのことだったりとか、阿波おどりがなかったら何もないじゃんって言われて。私、阿波おどりやっでたんで、それが刺さった所もあるんですけど。

逆に県外から来た子の方が、良さをいっぱい言ってくれて、それは気を遣って言ってくれたのもあるかもしれませんが、あそこ行ったよ、ここ行ったよ、「渦の道」行ったよとか、ドイツ館行ったよとか歴史についてもせっかく来てるからってという意味もあるんでしょうけど、いろいろ知っていて。住んでる私たちとか徳島で生まれた私たちの方が、徳島県のこと好きじゃないよねって言ったんです。

ここに来てる皆さんとか私とかは、違うと思うんですよ。どうしようか考えようと思っでてるし、自分たちの視点を活かそうと思っでてるから、徳島なんてみたいな言い方をしない人たちだと思っんです。

でも、私たちも一般と思っでてるけど、本当の一般の人たちとの熱量は違う。県のことを好きになるとか住んでる県のことを良く知るとかっていうことが、足りてないんだろうなって思っでています。私はそのドイツ館でさっきも言いましたけど、ドイツ館の運営をしてた人がいるんです、10年以上。徳島県の鳴門に限りますけど、鳴門の歴史とかわりと身近にあった環境の中で育っできたので、鳴門の良い所を私はすごい言いたいし、みんなに伝えるんですけど、でも私の友達はそうはしないし、こっちに就職しようと思っんだ

けどって言う子をむしろ止めている。就職先はあるかもしれんけど車を絶対買わないかんよとか、汽車とか電車も場所によったら1時間に1本あるかないかだし、バスも正直乗ったことない人も結構おるよ、私も正直大学生になるまで乗ったことなかったんで、そういう環境だよって言う子たちもいるんですよ。

だから、いっぱいやってるのはすごい分かるんです。行政として仕組みを作られてるんだ、それを推進しよう、これから支えていこうっていうのがすごく見えるんですけど、当事者がその魅力に気付いていないし、何してるか知らないし、あんまり好きになってないようなのをすごく感じて、それって問題かなって思っています。

少子化っていろんな問題があって、私もどちらかという子育てで思うところはあるんですけど、でも何よりもまずは好きになるっていうことを進めないと、一番大事なことがなってしまう、そこなんじゃないのかなって思ってます。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。率直なご意見をいただきありがとうございます。

では、木内さん。今の業務のことじゃなくて率直に、個人として徳島の現状や課題について、少しご意見いただきたいんですけども。

(木内オブザーバー)

病児・病後児とかファミリーサポートセンターというのがあるんですけども、知っている方は利用される方が多いんですけど、知らない方は全然あることすら知らないの、使われない方が多いんです。その差があるなと感じますし、病児保育という病院の方で、親がお仕事の日とかに預けることができるという制度があるんですけど、それについても知らない方が多いっていうので、利用されてる方が毎回使ってるっていうのが多いのかなと私はいつも思ってるんですけど、それで町とか県の方からこういった制度があるっていう広報みたいなのは、少ないのかなっていうのは感じます。もうちょっとあったら、もっと利用してくれる人が多いのかなと思いますし、子育て世代に助かるのかなというのがあるんですけども、それは感じています。

(青木部会長)

はい。ありがとうございました。広報の点ですね。では、新居さん。広報少し足りないといったご意見ですが、仕事の視点からでもいいし、個人のご意見で構いませんので、新居さんよろしくをお願いします。

(新居オブザーバー)

広報誌ですが、はたして子育て世代が広報誌を見てるのかなっていうのがあります。広報誌は、基本新聞折り込みで、市内の各家庭に配っていますが、新聞の購読者に限られているので、その広報の仕方でいいのか、広報の情報って世代別に変えていったりとか、何が必要かというのが課内でも協議してる段階なんですけど、SNS使ったりとかもしてるんですけど、どうすれば本当に情報を必要とする人に届けられるのかなっていうのが課題です。子育て世代、子育てしやすい街っていうのが、県外の人にも伝わったと思うんです

が、若者の流出っていうのはそういう所にもあるのかなと感じてます。

(青木部会長)

はい。ありがとうございます。では、茂村さん。今のご意見からでもいいし、現状と課題について思ってることでもいいです。

(茂村オブザーバー)

まず、私は、今年引っ越したりしたんですが、その時に子育てしやすい環境だとか、いろいろ調べてみたいなどは思ったんですけど、いまいち各市町村や場所によって、どう違うのかというのが、インターネットで調べようとしても、あまり違いが、時間をかけたら出てくるのかもしれないですけども、パッと探してなかなか見つからないっていうのが思ったところなんです。特にこれが決め手で、ここに住むとか引っ越したわけではないんですけど、こういう条件で住むと決めたいなっていう人にとっても、比較しやすいというか、こういうことがメリットだよっていうことが分かりやすいように、インターネットで調べることが多いかなと思うので、こういったものが見つければいいのかなと思います。

後もう1点、結婚についてなんですけど、私も婚活パーティーで妻と知り合ったんですけど、実際マリッサとか登録することができる前の話なんですけど、婚活パーティーとか利用してる人、こういう取組を利用してる人が増えていってると思うんですけども、自分が申し込んだ時とかは、自分もあんまり結婚に対して積極的ではその時はなかったんですけど、友達に行ってみるでみたいな感じに誘われて、たまたま出会えたっていう形ではあるんですけど、あんまり婚活パーティーで今の奥さんと出会ったってあんまり言ったことはないんです。

マイナスイメージというわけではないんですけど、何か言いづらいとか、実際、結婚してやっとな妻との馴れ初めとか、婚活パーティーで知り合ったというのは言わなかったです。特に何かあったわけではないんですけど、あまりマイナスイメージと言ったら言い過ぎではあると思うんですけど、一般的に婚活パーティーとかそういった仕組みに対して、利用しやすいな利用したいなという気持ちに向いていきにくいというような、多分合コンとかそんなのが一般的なところ、考えになってきたと思うんですけど、どういうふうに婚活パーティー当たり前だよみたいな、イメージ作りっていうのができたらいいのかなと思いました。

(青木部会長)

ありがとうございます。では、松本さん。今は子育てのこととか、出会いのこととかの話が出てきてるんですけど、ご意見お願いいたします。

(松本委員)

知らない情報を知らないということも子育てにおいてすごく思うし、実際自分も子育てしていて、外部のサポートを使うことに対してためらいみたいなのがあって、世の介護というのは、言葉悪いですけど、外注が当たり前になってるけれども、まだまだ子育てって、言葉悪いですけど外注することに対してすごく拒否感があるというか、周りの世間の

目みたいなのもあり、そこって寛容な社会というか、意識を変えていくことが必要なのかなと思っています。イクボスとか、今研修制度とかがあると見たんですけど、こういうことで上の世代の意識っていうのを変えていかないと。下の世代っていうのは、どんどん変わっていくと思うんですが、上の世代を変えるって一番難しいと思うので、そこに対しての施策っていうのはもっと出来るんじゃないかなと思っています。

知らないっていうか、知ってもそんなに得しないから知らないというのが、究極的な結論なのかなと思っていて、言葉悪いですけど、どれも最大公約数的な政策であって、すごく尖ったもの、もっとこうインパクトのあることって出来るんじゃないかなと思って。例えば、この少子化の予算10億あるんだったら。

1,000万はきついかもしれないですけど、500万でも出産一時金・出産手当金があると思うんですけど、どこも多分、市町村で30万とか40万とか、それ位の額だと思うので、例えば10億それに充てれば、1,000万だと100人ですか、100万だと1,000人、1,000人とれるっていうことは、5,000人中の出生率、出生数5,000人の1,000人増えるってかなりのインパクトかとは思いますが、なかなかそんなことは出来ないと思うんですが、せっかく「vs 東京」とか、あれとかすごくインパクトがあって好き嫌いももちろんあると思っていて、でも話題になった。

でも、そこから出てくる政策自体は、なんか結局一緒や、他府県と比べてそんなに特色ないっていうのじゃなくて、そこにもうちょっと尖ったものを中に入れていかなくてはいけないんじゃないかなと思います。そういうインパクトが前に出れば、それはもちろん炎上するかもしれないし、いろんなことがあるかもしれないですけど、そこから、バスラッピングするよりは良い効果が出るんじゃないかなという、勝手に広がっていくんじゃないかなという気はするんですが。そういうことって難しいんですかね。出産一時金をもっと増やすっていう短絡的なばらまき政策ってやっぱり行政として決断しにくい理由とかあったら。

(次世代育成・青少年課)

財源をどうするかっていうのは。

(松本委員)

財源は、例えばこの10億の中からとか。

(次世代育成・青少年課)

この10億っていうのも、県の施策を進める上で、安定的に確保ということで10億は積み立ててるんですけども、少子化のほうでも行動計画を定めてまして、その行動計画の期間は5年なんですけど、その5年間で、積み増してなかなか出来ないと思うんです。

今、国で幼児教育の無償化であったりとか、高等教育に対しての給付型奨学金の拡充とかいろいろ議論されてるところではあるとは思いますが、そしたら個人的な話しになるかもしれませんが、お金という部分、経済的負担というのがアンケートしても、この調査を見ても出てくる話しではあるんですけども、それ以外の部分も重要だとは思

んですが。

(松本委員)

現実的に、他の方は分かんないですけど、計算すると子供なんて育てられないって思うのが、今のほとんどの経済状況じゃないかなと思っています。また言葉悪いですけど、できちゃった婚どうやって増やすかとか、実際に子供増えてる国って、日本は結婚してからの出産率が多いですけど、逆のパターンで他の国とかで見ると普通にそっちの方が常識的だったりとか、なんかそういう尖ったことをやればいいというわけではないというのはもちろんあるんですが、せっかく尖ったことをしようとしている「vs 東京」というコンセプトからそういうことを感じたんですが、そこから付いてくる政策があったらいいなって個人的に思っております。

(青木部会長)

ありがとうございます。ここまで子育てのことを中心にきたので、竹内さんに登場していただいて。今まで普通に意見お聞きしたんですけど、話題を変えられてもいいし、あえて子育ての視点で思いというか、伝えるというか、ご意見をお聞かせいただければ。よろしくをお願いします。

(竹内委員)

子育てですか。人口減少と人口減少したからどうしようという話は、別の話で、2つは表裏一体ではあるんですけど、議論の内容は分けなきゃいけない。まずは人口減少の話ですよ、今やってるのは。人口減少をどうくい止めるかは、これ話がすごい広くて、日本全体としてどう捉えるのかっていう話と、徳島県としてどう捉えるのかっていうのは、別の話かと思ってます。

松本さんがおっしゃったのは、徳島県の話なんですよ。尖らせましょう。尖らせることによって他の県とは違うんだよ。徳島で子育てしてみないという視点、僕は徳島県の取組としてはありかなと思いますね。行政としては、どうしても全方位的に頑張らないと、どっかを捨てるわけには多分なかなか出来ないっていうのは、事情は分かるんですけど、それどこの自治体でもやってる話で、それは日本の取組だと思うんですよ。さっき他の方も何名かおっしゃってたと思うんですけど、施策が僕も多いなと思いました。僕自身が知らない施策もいっぱいあるので、子育て世帯にさえも認知していないし、子育てをこれからする人たちには更に認知していないので、施策の財源もからんでくる話なんだとしたら、なおさら取捨選択がいるのかなと思います。費用対効果の話だと思います。取捨選択をしないと、この次の話にも関わるんですけど、もう人も減るし、お金も減るので選びましょうという時代になるのかな。選んだ部分を尖らせるのは、徳島としては面白いのかなと思います。

(青木部会長)

ありがとうございます。ここまでは、自然減から子育ての施策のお話まで、数名の方にいただきました。

ここからは、施策として何が必要かなというのを簡潔にお願いします。

(富田オブザーバー)

人口減少を止めるとなるとなかなか現実問題として、難しいと思うんです。減っていくのは日本での事ですし、徳島でもなかなか難しいと思うんですけど、その中でも住みやすい街にするとしたら、若い人が働く所がないと、まず残ってくれないというのがあると思うんです。会社側から来てくれたらと思うんですけど、それも難しくなって。ただサテライトオフィスとか、そういう会社が来てくれたら、10人でも20人でも働ける所ができたら、ちょっとずつですけど、現実的なのとか、やっていきやすい部分なのかなと思います。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。「働く」というキーワードを出していただきました。松尾さん、働くというキーワードを交えながら、ご意見いただければと思います。

(松尾委員)

人口減少するのが問題なんだろうなと思うんですけど、高齢化の問題に取り組まなければなと思っていて、平均初婚年齢が上がって行く事で、子育てと介護は同時進行するっていう事が増えてるという印象があって、実際にテレワークを今やってくれてる子育て世代の方も3割、3割までいかないかもしれないんですけど、介護と子育て同時進行という状況があって、中には子育ても一般的な子育ての方もいらっしゃれば、障がいがあるとか父親が単身赴任していて、ワンオペかつ介護みたいな状況もあったりして、多様に子育てしてるという状況もあって、でもその中で介護するにも子育てするにもお金があるので2人とも働かないといけない状況なので、果たして働きやすい場とか子育てしやすい場とかそういう複合的な問題も起きていると思うので、どれか一方にすることで全部がまとまるという、ちょっとずつの要素を少しずつ底上げするだけでも、かなり楽になるのかなと思います。

子育て支援団体とかで、ホームシッターとかで家に訪問してもらって赤ちゃんの面倒を見てもらったり、今日は食事を作ってくださいとか、今日は家の掃除してください、みたいなのを安価な費用でもらえるようなシステムがあったり、実施している所もあるので、そういう所から、家事をしてもらっている間に子どもとの時間をつくるとか、子どもを見てもらっている間に、自分の仕事を少し終わらせるとかそういう感じで、ちょっとずつのサポートがあると全体的にいきなりうまく回らないと思うんですけど、負担は多少軽くなって、そういう現状があるっていうのが分かると、子どもをもう1人増やしてもいいかなとかそういう思考になりやすいのかなと思うので、話がまとまらなくなってますが、子どもを産んでくださいとか結婚しましょうとかいう、打ち出していくにあたって、例えば自分の親がこれから年老いていくにあたって、どういう支援が得られるのかっていうのも自分で分かっていると、何が言いたいかという、選択をしやすくなるのかなと思います。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。「多様化」というキーワードで介護、確かにそうですね、ダブルでくるとというのはこれからたくさん出てくるという視点でご発言いただきました。

富樫さん、お子さんおられる、いろんなご意見、みなさんの意見を聞いて、個人の意見で構いませんので、お子さんたちが大人になる時、また自分がおばあちゃんになった時に、こういった視点が大事かなっていうのをご発言いただければありがたいです。

(富樫オブザーバー)

自分の子どもが、まず子育てしやすいという社会と、自分の親が生き生きと暮らせている社会、その両方の実現が一番理想だなと考えてはきましたけど、それをこれからどうやっていくのが課題ではあります。最近が高齢化が進んではいるんですけど、元気な方も増えてますし、医療の発展などもあって、子どもの保育所の送り迎えを、私の祖母が82歳ぐらいなんですけど、お願いしたり、私が仕事から帰るまでちょっと見てもらったりとかして、そういった高齢者の活躍できる場、そういう所も増やしていくべきなのかなと思ったところです。後は、一応今回林業職とって特殊な職場から来させていただいてるんで、ちょっとPRも兼ねてなんですけど。

(青木部会長)

いいですよ、どうぞどうぞ説明してくださいね。

(富樫オブザーバー)

資料の右下ページの9ページですけど、その真ん中に「とくしま林業アカデミー」を開校と書いてあります。山間部、田舎では仕事がないと思われがちなんですけど、資源をはじめたくさんありまして、今こういう林業をやりませんかっていうことで県内にPRをやっております。新しい技術的なものとか、そういった知識とかも必要となりますので、即戦力を育てるということで、取り組んでいくことによって、一期生がもう十数名が就職して、今年度4月から働いてるとお聞きしてますので、こういった山間部でもできる、林業が山間部でしかできないことなので、こういったところで外部の方を、外部の方とかU I J ターンの方を徳島県に呼び込むという働きかけを今後もしていきたいなと思ってます。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。林業アカデミーさんね、いろんなPRとかされたりね、また高校教育で那賀町の森林クリエイトの学科ができたりね、力を入れてやられてる印象がありますので、中山間地域においても働く場の提供という視点でした。ありがとうございます。

今度は、松田さん。今働き方の多様化とか、高齢化とか働く場の事を、数名からご意見いただいたんですけど、松田さんの思いというか、これから2040年になった時にどんな社会になって欲しいかという事と、今後どんな施策が必要かという事を少しご意見いただければと思います。



(松田オブザーバー)

働くという視点では、地方は大きな企業が少ないと思うんです。働く場を、もっといろいろな有名企業などを誘致して、働く場をもっと提供できたら、それに伴って人がいっぱい働けるし、経済的にも豊かな生活を送れるぐらいの経済的な余裕もできる家庭がつくっていけると思うんです。もっと働く場を提供できるような施策を進めていけばいいかなとは思っています。

(青木部会長)

では、河内さん。例えば自分や自分のご家族、ご家庭が高齢になった時に、どんな社会になって欲しいかっていうイメージと、それと、そのためには1つでいいんで施策、徳島県としてこうした方がいいよというもの、独自の意見でもいいので。はい、お願いします。

(河内オブザーバー)

最近高齢者の中でも元気な方、今後とも病気にならないために、退職された方とか、家で居るだけでは、せっかく今までのキャリアとかが活かせないという状況もあると思うので、美馬の方、脇町の方、CCRCの取組が行われていますが、実際その高齢者の方たち、退職した方たちだけで集まる交流の場をどんどん日本で進めていってるとは思うんですけども、徳島市内でも今後そのような施設を作っていくって徳島県民だけでなく、県外からもいっぱい来てもらうってという対策が更に進めていけば、徳島も活性化するんじゃないかなと、考えてました。

(青木部会長)

ありがとうございます。CCRCね、私は高齢者施設に勤めてまして、専門でございます。徳島県としても推進しておりまして、この8ページの下にあります「アクティブ・シニア生涯生活活躍促進事業」がございます。アクティブシニア、つまり60歳以上で元気な高齢者を介護の現場にもって行って、介護助手として働いてもらうというのが11月から3ヶ月間、実証実験、徳島県として始まっております。そういった視点が高齢者だから、もう退職したら何もせんでいいっていうのではなく、高齢者の皆さんにも元気な人には頑張ってもらってね、やっぱり徳島県を支えていただこうと。そういった社会が今、現実に来ているんだから、こういった施策をしていかないかと個人的には思っておりますので、ありがとうございます。

では、三原さん、これまでのご議論の中で、これから2040年を見据えて、こういう施策があった方がいいというのを、これ、個人の意見でいいです。県職の立場でなくて。

(三原オブザーバー)

個人的にですけど、これから多分人生100年近くになると思うので、2040年、年齢は61歳近くになると思うんですけど、65歳で退職して、その後、何しようかなと思うんです。その後40年近くあるんで、そうした時のその年代の人の働く受け皿とかを作って欲しいなと思います。

(青木部会長)

分かりました。

では川西さん、美波町の話でもいいし、川西さんご自身の話しでもいいので。

(川西オブザーバー)

行政の施策とかあんまり増やさんでいいと僕は思っています。自分も役所の人間としてじゃなくて、個人として意見させてもらおうと、最初の話に戻ってしまうんですが、新しい施策をやると、どんどん住民の人が分からんようになってくるんですね。あまり個人的には施策増やさんでいいかなと。結構、施策増やして広報とかもやってるんですが、広報活動して、広報以外でもお話の中で、こんなんあるじょっていうのを伝えるんですけど、増える毎にどんどん分からなくなってきたみたいで。古い情報だけずっと残っていて、もうその補助金の制度終わってるというのも結構お年寄りの方だったら、いまだに思ってる方いると思うし、個人的には新しい施策は好きでないかなと思ってます。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。川西さん個人の意見で非常に良かったです。

(川西オブザーバー)

役場の人間として発言するのが、あんまり得意じゃないので。

(青木部会長)

そうなんです。この若者クリエイティブ部会は、オブザーバーと書いて、各市町村に属してはいますが、個人としての意見で構いませんので。

では、吉野さん。時間の関係上1つだけ何か。

(吉野オブザーバー)

今日のお話を聞いて思ったのは、やり過ぎ感があるのかなっていう。我々が一生懸命各持ち場でやって、それが小出しになってしまっていて、最初の話だと届いてないってことですよね。やるとなったら、行政としてやるべき事はきっちりやるんですけど、どこに何を出すかっていう所のコンセプトと、何をどう集中していくかという視点が必要なのかなと思います。

自分も施策を説明してても、全ては説明しきれないんです。あんな事やってます、こんな事やってますって言うよりかは、皆さんで20年とか40年先見たコンセプトって何なんだろうっていう中で、打ち出しを考えなあかんって。その打ち出しは何かって事は今全然見えてないんですけど、さっき良い事言っただいて価値観が私も似てるのかなって思ったんですけど、自分も子育てしてるし、親もおるし、嫁さんの親もおるし、子どもが元気になってほしいっていうことと、親の将来的には介護も心配だから、そこの両面見ながら自分の仕事っていうミドル層なんで、それが整ってれば一番良いよねっていう社会が自分として一番共鳴できたなと思っております。そのために、いろんな話を聞いてて、子育てがもうちょっと楽に出来るように、さっきヘルパーさんとか家に誰か来てもら

う、そういうことを気軽に出来るのもありだと思うし、出会いの場もさっきハードル高いつて言ってたんですけど、婚活パーティーっていうと堅いけど、気軽に楽しいイベントに参加するっていう感覚でやってたら、そのうちいい人が見つかるかも知れない。介護の方って社会化が進んできたのかな。分からないですけど、みんなで共通認識が出来て、それを小出しにするんじゃないくて、1つのアイデアを出していけたら面白い事になるのかなあなんて思ったぐらいなんですけど。非常に頭が柔らかくなった2時間です。すいません。

(青木部会長)

ありがとうございます。じゃあ最後2人の先生方にまとめていただきたいと考えております。じゃあまず池添さん、お願いいたします。

(池添委員)

ちょうど先々週は石巻、先週は熊本とか震災復興の所に行っておりまして、いろんな地域を見に行ったりしました。私は街づくりなんですけれども、行政政策をどうしていくとか、良いと言われている行政の所に話を聞きに行くというのを大学院の時からしています。

1つは行政の中でキーパーソンになるような方がいらっしゃる地域は、すごく生き生きしてるし、その方がいなくなったら、その地域が終わりじゃなくて、そういう行政の方がある地域がずっと続いているような所は、どんなに小さい町村レベルであっても、市街地であっても施策は回っていつてるのかなというのは、ずっと経験して思ってるところです。

だから行政職員に求められる能力はすごくプロフェッショナルな事になってて、地域のコーディネーターになるか、ソーシャルワーカーとしての役割だとか、行政の職員、非常に大事な職にますますなっていくだろうなというのが1つ思ってます。

あと、先程、竹内さんがおっしゃってたように、人口が減少するのは決まっているのか、別に人口を増やす事がいいか、長い歴史で見たら少し前の時代に戻るだけであって、それは自然現象だと思うんです。その中でどう考えていくか。政策は違う自治体でもいっぱい頑張っているんですよね、いろんなところ行ったら。行政政策で他に勝つっていうのが難しいと思うので、上田さんがおっしゃってたような、「なぜ徳島を好きになれないのか」というところで、やっぱり農業があり、漁業があり、川があり、みたいな自然の地形だったりとか、気候がいいとかそういうところが他の地域に絶対変えれないとこなので、そういう小さい頃からの原風景が徳島は美しいっていうのは、私も兵庫から来たのですごく思うし、食べ物がおいしいとかそういう事をもっと子どもたちに分かってもらうような、するとしたら徳島らしい徳島の良さを分かる教育にもっともっと力を入れていったらいいんじゃないかなと思います。徳島としてするのであれば。次の20年後にも多分「若者クリエイティブ部会」はあると思うんですよ。同じように2060年どうするって話しをした中で、今日のこの日のあの時、徳島のベクトルはその原風景を大事にして、すごく開発とかしていくんじゃないくて、原風景を大事にし、徳島らしさを大事にしていこうっていうベクトルだったよね、みたいな事が分かるようなクリエイティブとしてのおっきいベクトルは共通認識だったら、それに行政政策、施策はついてくるし、細かい事はどんどん変わっていくので、政治もあるし。そういう徳島に愛着を持ったら選挙も行くだろうと。やっぱり地域に魅力

というか、地域に興味がない人が育つのが一番あかんかなと考えてきました。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございました。最後、近藤副部会長お願いします。

(近藤副部会長)

いろいろとお話を伺って、私もそう思うという事がほとんどでした。ここでテーマを与えられてる中で、人口減少どうするのという事が大きなテーマで、竹内さんおっしゃったとおり、人口減少を克服する、人口減少をくいとめるという観点と、そうじゃなくて、それを受け入れた上で、何かするという2つに分かれた時に、人口を増やしていくための努力はしないといけないので、そこはベースとしておいて、でも受け入れた中で何ができるかという事を、今後、我々考えていかないといけないのかなと思います。

その中で、先程からお話してますように、取組が多すぎて分からないとか、同じような取組をしてるんですね、官でやったり、民でやったりだとか、中でも部局で同じような取組をしてるとか。徳島県庁の中では、最近お話し合いがちゃんとできるような仕組みが作られてるかとは思いますが、じゃあその県庁の中だけで考えたらいいかといったらそうではなくて、基礎自治体とか全基礎自治体で考えると、民間の人とかNPOの人とか含めてどう取り組んでいくかというのを、もうちょっとちゃんと整理をしてやって、本当の意味で、官と民が協同で地域の課題とか、地域でこうしたらいいっていうような事に取り組めると。皆さんがしてるように徳島をちゃんと好きになってくれる、興味を持って、こういうとこ気に入らんかなと思っててもいいんですけど、地域に興味を持って、エネルギーを持って、取り組めるような社会づくりをしていかなあかんのかなと思います。

まず、できることは多分今どんな取組がされているのかというのを整理してやって、本当に必要なのかと、この部局ではこの予算取ってるから成果残しておかないと上から怒られるとか、外から見た時に批判されるとかっていうのはあると思うんですが、部局同士の取り合いとかではなくて、やっぱり住んでる人とか、ここに住む人にとってどう役に立つかなとか、どんな良い事があるかなっていう、純粋な視点で考えていかなあかんかなと思いました。

今やってる事の広報、子育ての世代の人たち、認定こども園とかに今も制度とかを広報しているのでしょうか。みなさん多くの方が通っていると思うんですが、どっかの施設というか。保育園とかこども園もそうだし、幼稚園とかそういう所に通ってる、そこに情報投げていくと、まんべんなく伝わって行くのかなというような気はしたのですが、その辺りも含めて人口減少を受け入れた中で、みなさんおっしゃったとおり、スリム化していく必要もあるのかな、重要な事をちゃんと洗い出してと思います。

(青木部会長)

どうもありがとうございました。スリム化、そういった事業も多すぎるといった視点と、クリエイトのベクトルの話と、非常に言葉がずしりときた気がします。ありがとうございました。

まだまだ議論が尽きないと思いますが、誠に申し訳ないのですが、これで終了したいと

思います。それでは、事務局最後をお願いしたいと思います。

(事務局)

事務局から1点、本日の会議録の件でございます。

本日の会議録につきましては事務局で取りまとめを行いまして、青木部会長にご確認をいただき、県のホームページに掲載をさせていただきたいと考えております。その点よろしくお願いたします。

(青木部会長)

説明のとおりとさせていただきますよろしいでしょうか。

ではそれにさせていただきます。

それでは、本日の議事を終了させていただきます。議事の運営等において、ご協力いただき誠にありがとうございました。

以上をもちまして、徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」を閉じることいたします。皆様どうもありがとうございました。